社団法人三原青年会議所新聞

やっさもっさ

2003年7月20日 Vol.304

2003 魅力 思いやりの先にあるものは・・・

三原JCビジョン Collaboration City 21

発行■社団法人三原青年会議所
編集■広報委員会
三原市皆実4丁目8番1号
三原商工会議所内
TEL(0848)63-3515　FAX(0848)62-1141
E-mail : info@mihara-jc.com　http://www.mihara-jc.com

今月号の記事

1面　進め協働のまち「みはら」
2面　6月例会
　　わがまちよ活力を見出せ vol.5
3面　福祉のまち／安心して暮らせる
　　まちみはらとは Vol.6
4面　「住民による合併を考える会」
　　三原やっさ祭りインフォメーション

市民の声が形になった！ 三原運動公園整備事業のワークショップ終了

進め協働のまち「みはら」

社)三原青年会議所協働のまちづくり実践委員会（渡辺敏委員長）は、市民の声を取り入れた公園を造ることが目的のワークショップ（第3回）を、去る6月25日、三原市中央公民館中講堂で開催しました。今回のワークショップは、前回まとめた公園 案)を設計業者や行政のアドバイスも交えながら、テーマ（植樹・トイレ・歩道・遊具・ベンチ）ごとに5つのテーブルに分かれて具体的な公園完成予想図を作成しました。言葉で書いてあるものを絵にする事で、新しいことの発見や、イメージを深めることができました。また、今回初めて参加された方の違う視点からの意見や、参加者同士の白熱した意見交換などで、今まで以上に盛り上がった会になりました。このような機会が少ないことも影響しているためか、市民の皆さんの「まちづくり」への参加意欲の高さを改めて感じることができました。

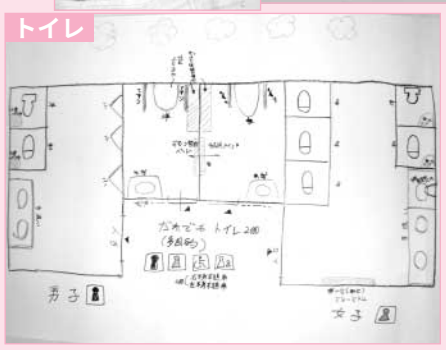
●市民が3回目のワークショップで作成した絵

ベンチ

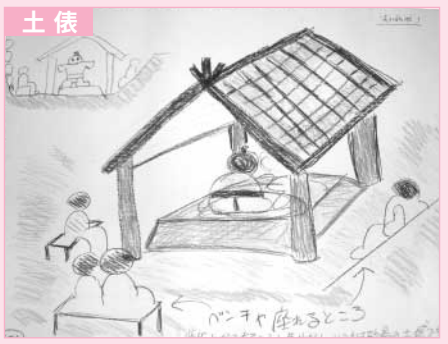
遊歩道

●2回のワークショップの意見を取り入れた図面

トイレ



土俵



三原運動公園整備事業についてのワークショップの流れ

計画

市民・企業・行政によるまちづくりを考えるとき、市民参加できるシステムをつくることが必要

↓

どうすればまちづくりに市民参加できるシステムをつくることが出来るのか

↓

システムも大事であるが、まず住民が気軽にまちづくりに携われる場をつくりまちづくりに対する参加意識の向上を図る

↓

(社)三原青年会議所 協働のまちづくり実践委員会

住民にとって身近な存在である公園を題材に選ぶ

準備

↓

三原市都市整備課

住民の意見を反映していただける施策を相談、題材として三原運動公園拡張部分が決定する

↓

呉ボランティア・NPO支援センター 呉市土木建設部公園緑地課 (社)呉青年会議所

公園についてのワークショップを三原青年会議所として初めて行うため先進地である呉へ出向き実際の運営方法について学ぶ

↓

紅梅保育所

幼児がおられるお母様方に参加していただくため、ボランティアで保母の派遣を要請

↓

広島県立保健福祉大学ボランティア部

運営する上で大学との連携を考えてボランティアで運営のサポートを要請

実践

↓

第1回ワークショップ

公園について思い思いの自由な発想で意見を出していただく。同じものについては統合する

↓

三原市都市整備課と協議

↓

第2回ワークショップ

公園について思い思いの自由な発想で意見を出していただく。同じものについては統合する

↓

三原市都市整備課と協議

↓

第3回ワークショップ

前回まとめた公園（案）を基に、実際に絵にしていく

↓

三原市都市整備課と協議

↓

平成17年3月末に完成

ワークショップを終えて

光り輝くオンリーワンのまち「みはら」を目指して

今回のワークショップには、行政をはじめ、設計業者や多くのボランティアの方々に協力していただきまして、ありがとうございました。また忙しい中、参加していただいた市民の皆さんにも御礼申し上げます。

社)三原青年会議所では、自分たちのことは自分たちで考え、自己責任で決定する地域主権型社会を実現するために、市民・企業・行政による協働のまちづくりを目指して活動しています。そのためには、三者がまちづくりに参加できるシステムが必要だと考え、その第一歩として、市民が気軽にまちづくりに携われる場を計画しました。そして右記の図のような流れで三原運動公園拡張整備事業のワークショップを「協働で行うまちづくり」の必要性や魅力を感じるきっかけになってくれればと実施させていただきました。参加された市民の皆さんは、この体験から、まちづくりへの参加意識、自らのまちに対する責任意識が高まり、今後、同じような機会へ積極的に参加していただけることを期待しています。また、この記事を読まれた読者の皆さんも、自らの問題だと意識してほしいと思います。私たちの住む「まち」なのです。光り輝くオンリーワンのまち「みはら」になるかどうかは、皆さん一人ひとりの行動にかかっているのです。

みたかきいたか

最近、テレビのニュース等で見かけたのだが、聞きなれない単語「でんき予報」が関東地方ではじまっているらしい。何かと思えばこの夏、東京電力の電力供給が一部ストップする可能性があるとかないとか。節電を呼びかけてのことだろう。昨今、原子力発電所が不祥事により稼動を停止しているため、需要のピークを向かえようとしているのに供給量が不足し、一部停電するらしい。◆現代社会でこんなことがおきていいのだろうか。東京電力の体質・体制・技術力に疑問を持たざるを得ないが、最近の日本国内の出来事を見ると金融問題にしても、この電力問題にしても、少し前なら「危機感を煽っているだけ」と国民は取り合おうとはしなかったはずだ。何とかなるはずだ、と勝手に思い込み、それが何とかなってきたのだ。◆ここ最近は違う。金融機関の例を見ても、危ない危ないと言われ続けて「やっぱりダメだったか」が、この国のパターンになってしまってはいないだろうか。みはらのまちを見てもあてはまることがあるのでは。ダメにならないように将来のことを見越して強力な布石を打てる人材はいないのだろうか。いないのなら育てようじゃないか。◆今を生きる責任世代としての責任と義務についてちょっと考えてみてほしいなぁ。権利ばかり主張して、責任という部分が忘れさられてはいないだろうか。個と公が調和のとれた世の中になれば、ストレスなくスムーズに暮らせるのになぁと思うのである。

本紙『やっさもっさ』は、1月から11月まで毎月1回発行し、新聞折り込みを中心に配布しております。何卒ご愛読ください。※資源保護のため再生紙を使用しています。